

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年11月8日

No.5

会社：経営を取り巻く状況を考えると昨年並みは厳しい  
組合：会社の考えは到底受け入れられない！再考を求める！

## —2012年度 年末手当第4回交渉報告—

中央本部は、本日11時から第4回年末手当交渉を行いました。本日会社は年末手当に対する考え方について示しました。会社の考え方は以下の通りです。

- ①年末手当に対する世間の動向は、JR他社は西日本が2.65ヶ月（昨年度比+0.04ヶ月）それ以外の各社は現在交渉中である。物流他社は、日本通運が51万2千円（昨年度比-16,000円）となっている。
- ②会社の動向は、昨年度と比べ改善しているとはいえ、中間決算では経常利益・当期純利益共に赤字決算となる予定である。
- ③運輸収入は対前年では上回っているものの、対計画で10月は△3億円、11月も現時点で△0.8億円である。関連事業部門も昨年と比べ大型案件がないことから対前年△25億円となっている。
- ④今後も引き続き収入確保に向けて取り組むが、経済状況も後退局面に入っており、厳しい状況に変わりはない。
- ⑤以上の状況から、収入を進めると同時にコスト削減も進めていかななくてはならない。したがって昨年並みは到底出せる状況にない。

これに対して中央本部は、会社の無責任な考え方を断じて許さず、以下の点について糾しました。

- ①外的要因ばかりを理由にして組合員に責任を転嫁することは許さない。我々の苦勞に対して会社は具体的な形で応えるべきである。
- ②中間決算の結果を受けて、経営陣の危機感が全く見られない。少しでも収入を稼ごうという姿勢が全く見られないのは大きな問題である。輸送障害が減収の大きな要因であるならば、その解消に向けて経営陣が先頭になって努力をするべきである。
- ③収入計画未達は努めて経営責任であり、経営陣が骨身を削らずにただ我慢してくれと言うのは絶対に許さない。
- ④多発する輸送障害の中、組合員は安定輸送のために限界ギリギリの努力を職場で続けている。計画達成のためにも会社はこれまでの努力に対し、しっかりと見える形で報いる義務がある！
- ⑤会社の状況において昨年より厳しいと言われる事柄は見当たらない中で、昨年並みは厳しいという理屈は到底納得出来ない。次回の回答指定日までに社内で再考し誠意ある回答を求める。

組合員のみなさん！経営陣は現在に至っても危機感が全く見られず、収入未達といった外的要因を理由に手当を抑制する無責任な対応に終始しています。私達は、度重なる輸送障害の中で安全作業と安定輸送に努めてきました。この努力に対し「我慢してほしい」との言葉でごまかそうとする会社の姿勢を絶対に許すことは出来ません。13日は統一行動日です！全組合員が一丸となって怒りを結集し会社経営陣に突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は11月15日（木）です。